				【伊丹市立伊丹小学校】 よい子 強い子 伊丹の子 一新しい時代を生きる徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成一					
教育目標 重点目標				よい子 強い子 伊州の子 一新しい時代を生きる徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成一 ①人間性の酒養につながら教育推進 ②全ての子どもの可能性を引き出す尽寒改善の推進 ③身体的・精神的な健康の保障と健全な食生活の推進 ④教育環境の整備、果務改善と学校安全の死実 ⑤地域ととせいるる学校で3/00相進					
主要施策		施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②離一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域 の連携	・様子書き、計算などの基礎的な学 力を児童に定着させる教育活動を 計画する。 研究テーマを伝え広げ深め合う 協働的に学ぶ子どもたちの育成と に話す・聴く話と含り不成化! 「教師の仕掛けや発問の焦点化」 「学び会える集団づくり」の3観点から研究テーマに迫る。	サニック・ストに担張、計事」が・変かった課題を中心に、仲外・タイルで活動」「音談計算」を取り組み、音熱を図 5. 1年に1回題話、算数のチェックテストを 15. 2年に対して、実際のチェックテストを 15. 2年に対して、大学を記述して、実際の主なが、アータ、とのグループにおける対話 が下が、タ、東のグループにおける対話 的活動を進して、深め合える集団づくり を図る。 1枚/内尾乗参戦を全学年行うことで授業 或者を図る。	・国語、実数のチェックテストの籍 果での正答率が80%を担える。 ・数職員、児童、保護者の3種のア シケートにおいて、学習や保護の する質問に肯定的な回答が90% を超える。	В	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・中ルタイムでは《活動』 普熱計算」を 取り組み、機能、で国施を図る ・週 1回学年打ら会わせで等回の冒勢 状況を経験する。そして、定例例をで報 告し、学校全体で共有する。定常に復 宮の時間が必要ならば、復覧理想を 学年で用意し、冒熱を図る。 イ研究推進では、話し合いの光管化 をサイフラーマに振え、話し合いの内容 の質を上げることを目標とする。	・収区の特徴である家庭の豊かさに支 えられている面が大きい。 ・参覧員が課題意識を持って取り組め ているように思い ・日々の積み上げによって学力の底上 げができている。
		新しい時代に対応 した教育の推進 ①情報活用能力の 育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・端末を活用し、適切に情報収集したり、工夫してアウトブットしたりで たり、工夫してアウトブットしたりで きるよう指導する。 ・明遠しと恋れず英語での金話を 積極的に取り組むことができる環 境を作る。 ・デンタル機器の活用方法を指導 できるようになる。	・端末やスクールタクト、アプリの使 用法などの技能調査を行い、活用 の幅を広げる。 ・定期的にペア活動やグループ活 動を取り入れ、主体的に外国語で 発話する態度を育てる。 ・端末やアプリの活用方法を学ぶ 研修会を開く。	・技能講習を年間6回目標に行う。 また都度アンケートとり、ニーズ に沿った講習が行えるようにする。 ・主体的に外国語を用いてコミュニ ケーションをとれるよう活用的な技 能を身につける。 ・年間3回、情報に関わる研修会を 朋く。	А	・端末の使い方など、講習や研修を5回 実施した。 ・児童や職員の普段使いの活用能力を 底上げずる内容ではなかった。 ・間違えても挑戦する児童が増加した が消極的な児童は変化がなかった。 ・学習状沢調査「英語の勉強は好き」が イ象をで展・囲り付意に高かった。 ・年間に回、研修を行い、多くの職員が 参加した。	・職員の実際の活用事例を部会で吸い 上げ、研修会以外でも共有の場をとあ。 必然的に実践を話さなければいけない い状況を増やす。また話したくなるよう な授業内容、環境づくりをする。 ・年々、活用方法、アブリなどが増えて いるので、引き続き定期的に研鎖を積 んでいく必要がある。	・学級による差があると思うが、日常的 には「根器の活用が進んだことで、子 もたちの情報活用能力の底上げが進 でいる。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②にじめ等の未然防 止、早に向けての組織 的な取組の推進生 はそその保充実 《体験活動等の実 施	活音預念見阻し、認いやりを持つと 静かに落ち高いて参いて行動する ことを意識させる。 いじめの未然防止、早期発見を図り、児童が楽しく過ごせる環境をつ くる。 ・不登校の早期発見、対応に努め、 児童が安心して通えるように支援	必ず設定し、児童に多識させる。 「児童アンケーに「部下階段を思いや りを持って持かに落ち着いて歩く」の項 目を追加する。 ・生活要員会の活動からラスの児童。 ・年間回回のいじめアンケートやセルフ テェックシートを活用し、いじめの早期 男見、対応に努める。 ・児童の学校での様子、異変を 駆じたさきには家産訪問や電話連絡や	いて教えてもらっている」の質問に肯定 的な回答が90%をこえる。 ・教職員アンケートでの、「問題行動が 起きた時、組織的に対応できる体制が 整っているか」の質問に肯定的な回答	В	・変要アンケード目的を大切にすることを、他の人の思いやリージンできてきる。であった。 の人の思いやリージンできてきる。であった。 の質問に声控が国際者が全体であった。 ・ 発聞員アンケードに「開発行動が混合する。 ・ 表聞員アンケードに「開発行動が混合する。 ・ 表聞員アンケードに、「開発行動が混合する。 ・ 表しまった。 ・ ままった。 ・	・児童が自己有定感を高めることができるように、遺巻だけでなく学や生活にないて児童が周囲の人々と関わりなが。 と、生体的に活動できる取り組みを計画、実施していく、「理路の情報、問題行動などの共有方法については年度末に改めて全職員で確認をした。 「早降・早起き・棚には入れこのいては、現童だけでなく、保護者にも呼びかけていく、「早降・早起き・棚には入れこのいては、児童だけでなく、保護者にも呼びかけていく。」 「早降・早起き・棚には入れこのいては、兄童だけでは、保護者にも呼びからいと答理者といるい思恵を必ずいとないといる時をといるい思恵を必ずいと言うないといる事をがいます。ない、と言うないといこのないと、実施を持つ、との問題といるい。単位をは、日本のでは、	・連載で何を行っているのか見えにくら 時代に治っていないように思い。 ・いじめアンケートでによればいじめない かいと思われることもあるようだか、 ・最近では問題行動よりも不登校問題でいることは存在できる。 ・最近では問題行動よりも不登校問題が大きな課題とかっている。学校として は悩ましいところではあると思うが、多 株な学りの予集と必要ではない、一本学校として は悩ましいところではあると思うが、多 株な学りの予集と必要ではない、一本学校として は協力はでしている。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 は協力はでしていることである。 を対していることである。 現前にした。 活習情の確立は非常 認めることである。 現前にした。 場所にした。 場所にないる。 場所にないる。 場所には、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力 向上の促進 ②魅力ある部活動の 推進 ③発達段階に応じた 健全な食育の推進	・運動に親しみ、楽し人取り細む態度を 育てる。 ・学校打事や休み時間、教育活動全体 を選近て、体力・運動能力の向上を図 る・からや体の健康に関心をもち、健全な生 体化学等が支払しても仲より、健全な生 体化学等が支払しても仲より、楽しく運 中心学等・設理をもち、工夫して運動を 楽しくできる子ども、体の条件、発達に ではる子ども、体の条件、発達に では、運動の単立や単行が、運動を対していて関係できる子ども、 ができる子ども、心の健康がある。 ・変生活や来級力が向こっいて理解 ・変生活や来級力が向こっいて理解 ・変性できる子ども、	・固定時間に応じた単元指導計画を立 で、投棄の充実さはかる。(1年 102時 間、35年 4年 103時間 週の時間、55年 409時間 週の時間、55年 409時間 週の時間、55年 409時間 週の時間、55年 409時間 週の時間、55年 409時 25年 409時 25年 409年 409年 409年 409年 409年 409年 409年 409	・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツをすることが好きの肯定を回答が90%をこえる。 ・・全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「体育の授業は大きしい。「体育の授業は大きしい。「今日では、「東京ンゲートにて、「子どもは、運動に親しんでいる」の肯定的国答が90%をこえる。 ・・児童アンゲートにて、「子どもは、運動に親しんでいる」の肯定の国答が90%をこえる。 ・・児童アンゲート「早暖・早起き・朝では水を心掛けて生活している」の項目で自定的な回答が75%をこえる。	В	が受けた。 「全国体力、運動能力、運動管債等接受に おいて、運動やスポーツをすることが持合。 の責命的場合性等からのをとしていまった。 大学社で1994にとどまった。 「学校経費には「体を動かす」との特合との項目に実施が公開とした児童が994とといる。 「機遇者ファントして「そとも経動が、対象では一般である。 「機遇者ファントして「そとも経動に親し、 「体質性自然は対象」を加したが、対策で概 している」の資産的関係に対象がある。 「本学社が「常生の機具に共有する基金技ででき、 「企業といってはてきなかった。 「中国アント」に関係、早起と、現ると 動についてはてきなかった。 「中国アント」に関係、早起と、現るにはんを 心掛けて生活している」の項目で肯定的な回 各が等年度に比べ増え、76%となった。	・全職員が体育の授業を充実して行えるように、自主研修などを積極的に活用し、指導力向上を図る。 長期休暇中の宿題に「体つくり運動」 に関する電話を今年で取り組ませる。 ・倉官ごついては引き続き、保護者に情報を発信していきながら具体的に推進 していく必要がある。	・猛暑により外で思い切り体を動かす。 とが難しい期間が増えているため、そであ のでありますることが必要だる。 ・金場は持久力がつく活動が必要だと 思う。 ・金貨は生活習慣の確立につながるため、保護者も巻き込んで進めてほしい
			ができる児童を育成する。 ・児童の心理的、福祉的な支援のため に、管理職や特別支援教育の、生徒相 専担当が窓口となって、SCやSのない 板内のケース会議等のへの参加等、積 板的な店用を図り、「テーム学校」の構 条を行っていく、 ・心理画、発達画等の個みを抱え合成 に、特別支援教育のが中心となって、 を拝仏 結婚が 中華教育 生体料道 会社	りが目標を持って学校生活を送れるよう 指導にあたる。	こえる。 ③教職員アンケートで、「特別支援教育 コーディネーターが中心となって、支援	В	用できた。守秘義務の関係上、カウンセリン グ内容を知ることはできないが、保護者から 情報共有OKをもらっている家庭に関しては、 当該児童の学級担任と連携もできた。(課	ると選席が曖昧になるため、目標設定は数 値を入れるなど、具体的に考えさせるように 学校全体で統一していく。 辺界なども相談をし、次年度はSCが交代す ることもあるので、放課後のカケンセリング 時間を作っずにいく。 3別機から来年度の赵務分掌として、特別 支援教育でのは2名十教育支援1名の配置 予定する。今年度3名で仕事を回し、相談 や教育支援1と対応してきた。次年度はこの 人員で対応をするだけでなく、今以上に学年	・キャリア教育については、中学校より・小学校の時からいろんなこともかけできるように計画的に対していまった。 いっぱい かいまかい ままり かいまかい ままり かいまかい ままり かいまかい ままり かいまかい ままり かいまかい ままり ままり ままり ままり ままり ままり ままり ままり ままり まま
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活 性化 ②特別支援教育の充実		・特別支援学校センター的機能の 活用を活かして、校内支援体制を 通して必要なアドバイス(コンサル) テーション、巡回相談)を受けたり、実践講座を受けたりして、専門性を 伸ばす。 ・児童一人一人の実態を把握し、 現立切な教育支援を行うことにより、 児童の可能性を引き出し、確かな アカの向上と登かな心の育成を図り、生きる力(自立)へとつなげる。	・校内支援体制における支援の中 た・一人に応じて、必要なアドバ イスを希望、申請したり、実践講産 を受けたける。 ・児童の実態を揮乱ため、支援する ・児童の実態を振むため、支援する 場を設定する。 ・個に応じた教育支援計画等を作成し、適切な対応を行う。	・数國月アンケートで「校内支援体制を 通して、ケースにむじて、必要なアドバイスを受けたり、実践構造を受けたり、 て、ケースにむじて、必要なアドバイスを受けたり、実践構造を受けたりして というからの質問に有きから回音から 「不要しているの情報を致め場を毎月 ・本を回以上を今フスの実態や学級経 第、支援の必要な沙理の理解について 文表する。(生活人権支援研修会、ひま わりきこス研修会)・コンケバルを作成 、本学なと変越が選携しながら、観検し た支援を行う、(衛学期) 、本学なと変越が選携しながら、観検し た支援を行う、(衛学期) の表現になって、教育相談や巡回相談 につなげる。	В	よりを掲示したり、学期に1度の1特別 支援教育通信を発行してきたことで、 教職員の取組(授業収り、人的UD、物的 UD)を周知することができた。 (課題1特支Co-Sセールに、細やかな対 をが行われていると感じるが、対象とな る事業があまりにも多く、一部の教員に 負担がかかることも多く、人手不足が否 かない。 (2) 毎月の部会、生活人権支援研修会	学校生活を接教員、通飯指導)には 株々なところの動いて頂いた。火年度も 校内分率上には、表記されることはな いが、毎月の節をや名相談等では力になって頂ぐ声である。後日に回収する に次番高の毎冬学げていきたし、 ②とり効果的に支援できるよう。支援体 制図(生性指導)と特別をは実度できるよう。支援体 別も含めて、夏瓜・や検討をしていく。 学年間や校内全体で学習面、生活面等 境づくりに向けて、今後も継続して、基 他的環境整備(DMC)等で取り組む。ア	・今年度から通搬指導の競点校として に機能していたように感じる。 ・特別支援教コーディネーターを中 に、個別最適な支援体制の確するが、 で取り組んでいたとは評価の確するが、 手不足である現状は否めない。 ・天足である現状は否めない。 ・大変接を必要とする児童が増加してい、 ・大変接を必要とする児童が増加していない。 ・人食の確保、拡充が喫緊の課題ではないか。。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実		・時代、課題に応じた研修を実施 し、学校教育目標の具現化や個々 人の能力アップに努める。	・現状での自校の課題から精選した研修を実施する。	・教職員アンケート「子どもを取り巻く課題や必要とされる教師の資質・能力に即した校内研修を行っている」の項目で肯定的な意見が95%をこえる。(昨年度91%)	Α	即した校内研修を行っている」の項目で 肯定的な意見が98%であった。	れる中、各分掌の担当者と連携して研 修の精選をすることができているので、 引き続き情報交換しながら検討してい く。	若い教員が非常に多いが、研修に同した際に積極的に取り組む教員が多く活気があり、よい雰囲気であった。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの 充実。(2)地域と学校の連携・協働 体制の構築		・学校連當協議会を中心に保護 着、地域との通外い様の連携」と 幼小中の「緩の連携」を強化し、教育環境の拡充を図る。	- 学校だよりやHP等を活用し、積 権的な情報を属に努める。 ・地域行事等の案内や情報を教職 責に知らせる。 ・学校からの手紙にGRコードを添 付し、HPの活用を推進する。	・毎月学校でより、学年遺信を発行する。 ・各学年ごに毎月HPを更新する。 ・各学年ごに毎月HPを更新する。 ・保護者アンケード学校は、各種おたよりやホームページなどを通して行機を発信している」の項目で、肯定的な意見が100%になる。 (昨年度97%)	Α	・毎月、平秋だより・学年通信を発行すること ができた。 ・毎月更新することができていない学年が あった。行年の関係や更新方法の領域さが 関係していると考える。 ・程度著デンケー学校は、各種おたよりや ホームペークなどき近して学校は、各種おどれない は、日本の方はでありたまた。 ・1 社会見学の見守り、九九の学習などで保証 あの方に協力しただき、子どもにとって よりよい環体を整えることができた。また。社会 会材の学習をからに触りながさきた。また。社 会材の学習をからに触りなができた。また。社 会材の学習をからに触りながない。	構定的な意見になっているが、ORD― ドドヤでないりみを添付する。などの 能かなニーズに対しても校内で検討していく必要がある。 ・ドルの更新規度について校内で検討していく。今年度同様の回数を目指すの でいく。今年度同様の回数を目指すの であれば更新方法の研修を行う。 ・いまできている地域のお話や江事との つながりを続けていくために、それぞれ の学年で今年度の取り組みを来年度に 引き継いでいく。	学校支援ポランティアの様子を構設 でもらって、やる気とやりがいを感じた 他校の取組で、年度当初に地域と対 して、「いつ頃、どのような支援を するか」などといった具体的な依頼的と を示すことで、見通しそもかに変換さ めていた。このような工夫は取り入れ でくっきだと思う。 ・休日に開催される地域活動・教職員 がもっと参加してほしい、特別休暇を と なこともできるのではないか。
	安全・安心な教育環境の 充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進		できるよう備える。 ・児童が安全に登校できるよう指導する。 ・児童が安全に学校生活を送ることができるよう安全を確認し、必要であれば修繕、の機等する。 ・今ある施設設備をきれい「使おうしする態度を育てる。 ・事務処理を情報機器を用いることで効率化する。 ・教育目振の来現、働きやすい環	・ 放保に応じて自分で判断できるよう学 参く体で指導する。 ・全性生が集まったときに話をしっかり 間を、兼年、版とこができるよう円 海子、原とこができるよう円 海子、原とこができるよう円 海子、原とできるようでは、 であるようによい安全な施設設備の使 い方を選査指する。 ・全職員、ボランティアの保護者で清極 前の形面のが最かにが見れては、 海外のでするが、 本部のであるが、 本部のであるが、 である。 でる。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	・安全に気を付けて、事故なく登下 ・安全に気を付けて、事故なく登下 校できる。 ・毎月安全点検を行う。 ・保護者アンケード学校は、学習 の場として子どもが活用しやすい 環境が整っているの項目で肯定 的な意見が95%を元える。 ・デジタル化による効率化を提案 年度由に3つ以上 早板的に業	В	て実施し、全校児童の前でお話もいただけた。 ・3学期には、避難の仕方もうまくなり、放送	者同样即線を行い、保護者との連携をしてい く2月の防犯別線では、笛の合画を決めて施 に2月の防犯別線では、笛の合画を決めて施 にできるようにしていたり、携帯電話をきま (優う方向で話し合いができるといいと考え 火器等も後でて身を守っていきにしまる。 地では、1920年のではいまた。 地では、1920年のでは、また、 地では、1920年のでは、また、 地では、1920年のでは、1920年のでは、1920年のでは、1920年のでは、1920年のでは、1920年のでは、1920年のでは、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿では、1920年の下投稿を対する。また、1920年もお世話になっている。1920年の下投稿を指導している。1920年の下投稿を指導している。1920年の連絡を指導している。	する危険(食物アレルギー、誤飲)もあることから、救命教急に係る研修を充

学校関係者評価総括 校内研修について、その内容や実施方法を担当が主体となって工夫を凝らした形で実施しており、教職員が主体的に取り組んでいることで活気が伝わってくる。また、そのような取組を継続的に行っていることで、 教職員自身が課題意識を持って日々の教育活動に取り組む姿勢が見られる。また、子どもたちの多くが落ち着いて学校生活を送ることができているが、これは伊丹小学校区の家庭力の高さによる部分も大きいよ うに思う。 一方で、伊丹小学校は特別支援学級に在籍する児童をはじめ、支援を要する子どもも多く、また、不登校児童の増加など、学校における問題は多様化、複雑化しており、現在の人員では十分な支援体制を講じることは非常に難しいのではないかと思われる。 教職員の働き方改革の視点から、ペーパーレスやICTの推進をはじめ、学校単位での取組だけではなく、システムの導入など、市単位で抜本的に取り組む必要があるのではないかと思われる。

次年度に向けた重点的な改善点

次年度に向けた重点的な改善点 若い教職員が非常に多く、活気にあふれる反面、経験豊富な教職員が不足することで教職員の資質向上に向けた取組を継続的に取り組んでいく必要がある。 また、支援を要する児童が多いことを踏まえ、市教育委員会に対して協力を求めるとともに、組織的な支援体制の構築を進めていく必要がある。 さらに、地域とや家庭との連携については、他校の先進的な取組を参考にさらなる推進を目指すとともに、地域活動への児童や教職員の参画・協働と、それに向けた発信を行っていく必要があるのではないか。 また、子どもの安全確保に向け、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から、教職員の資質向上に向けた研修を行う必要があると考える。